

# 第26回 山片蟠桃賞

(大阪国際文化賞)

受賞候補者推薦要領

山片蟠桃(1748~1821)について

寛延元年(1748年)播磨国印南郡神爪村(現:兵庫県高砂市)生まれ。

大阪の豪商升屋(両替商)の大番頭として、凋落寸前の升屋を再興するとともに、仙台藩の財政再建に成功するなど、並外れた才覚をみせました。

生来の学問好きで、当時最高水準といわれた懐徳堂で、中井竹山・履軒に儒学を麻田剛立に新しい天文学を学ぶとともに、蘭学にも深い関心を持ち、懐徳堂門下でも出色の才と讃えられています。

彼の名著「夢ノ代」(全12巻)では、卓抜した経済論や一切の神秘主義を否定した無神論、宇宙には私たち太陽系と同じものが無数に存在するという大胆な大宇宙論までをとなえ、創意と創見に満ちた現実的・合理的思想をいかんなく発揮しています。

- 1 対象 ————— 国外において刊行された日本文化の国際通用性を高める著作とその著者であって、以下の基準を参考に推薦してください。
- (1) 著作の範囲は、日本文化についての研究、紹介及び日本文学の翻訳を指しますが、文章による表現が主体となっているものとします。
- (2) 日本文化とは、日本文学、芸術及び思想の分野とします。
- (3) 著作の発行形態は、それぞれの国で国民一般が入手できるよう公表されたものを対象とします。
- (4) 著作の刊行の時期は、直近の数年間のもものとします。
- (5) 著者についての国籍は問いませんが、今後とも日本文化の海外紹介に貢献が期待できる人が望まれます。
- 2 受賞者の選考 ————— 学識経験者、大学、研究所、国際交流機関などの推薦を受けた受賞候補者及び著者について、学識経験者からなる審査委員会においての審査の上、3年に1度1件を決定します。
- 3 推薦件数 ————— 各推薦者の推薦件数は1件（著作及び著者）とします。
- 4 推薦手続 ————— 同封の所定の推薦用紙に所要事項をご記入の上、〒559-8555 大阪府大阪市住之江区南港北1-14-16 大阪府府民文化部文化・スポーツ室文化課あてにご送付ください。  
URL <http://www.pref.osaka.lg.jp/bunka/news/bantou.html>
- 5 推薦締切日 ————— 平成30年7月31日（火）
- 6 賞の発表 ————— 平成31年2月（予定）
- 7 賞の内容 ————— 賞状（贈呈式及び受賞記念講演会のための招聘旅費は大阪府が負担します）

#### 山片蟠桃賞の受賞作と受賞者

（職名・国名は受賞当時）

回・年度	著作	著者	国名
第1回・昭和57年度	“World Within Walls” をはじめとする著作	ドナルド・キーン (コロンビア大学教授)	アメリカ合衆国
第2回・昭和58年度	“Lessons from History” をはじめとする著作	ジョイス・アクロイド (クイーンズランド大学教授)	オーストラリア連邦
第3回・昭和59年度	『日本語の中のオランダ語』 をはじめとする著作	フリッツ・フォス (ライデン大学名誉教授)	オランダ王国
第4回・昭和60年度	『日本9万葉集』 をはじめとする著作	金 思輝 (東国大学校教授兼同大学付設日本学研究所長)	大韓民国
第5回・昭和61年度	『10-13世紀日本文学における日記と随筆』 をはじめとする著作	ヴラジスラフ・ゴレグリアード (ソ連科学アカデミー東洋学研究所レニングラード支部極東部長 兼レニングラード大学日本語科主任教授)	ソビエト社会主義 共和国連邦
第6回・昭和62年度	『日本古典文学事典』 をはじめとする著作	アール・マイナー (プリンストン大学教授)	アメリカ合衆国
第7回・昭和63年度	『道行文』 をはじめとする著作	ジャクリヌ・ピジョー (パリ第七大学教授)	フランス共和国
第8回・平成元年度	『18世紀日本の『徳』の諸相—大坂商人の 学問所・懐徳堂』をはじめとする著作	テツオ・ナジタ (シカゴ大学教授)	アメリカ合衆国
第9回・平成2年度	歴史的日本に対する文明論的あるいは 学問的考察に基づく一連の著作	サー・ヒュー・コータツツイ (元駐日英国大使)	英国
第10回・平成3年度	“The Tale of Genji” (『源氏物語』全訳) の 翻訳をはじめとする一連の著作	エドワード・サイデスティッカー (コロンビア大学名誉教授)	アメリカ合衆国
第11回・平成4年度	『坂本龍馬と明治維新』 をはじめとする一連の著作	マリウス・ジャンセン (プリンストン大学名誉教授)	アメリカ合衆国
第12回・平成5年度	『御堂関白記』 をはじめとする一連の著作	フランシヌ・エライユ (フランス国立高等研究院教授)	フランス共和国
第13回・平成6年度	『大英図書館蔵日本古版本目録』 をはじめとする著作	ケネス・ガードナー (元大英図書館東洋コレクション副主席)	英国
第14回・平成7年度	奄美・沖縄を中心とする調査と研究をはじめ、 民族学的考察に基づく日本研究の一連の著作	ヨーゼフ・クライナー (ボン大学教授、ドイツ日本研究所長)	ドイツ連邦共和国
第15回・平成8年度	『中日文化関係史論』をはじめ、日本の歴史 と文化の研究に基づく一連の著作	周 一良 (北京大学教授)	中華人民共和国
第16回・平成9年度	『地球と存在の哲学 環境倫理を超えて』 にいたる一連の著作	オギュスタン・ベルク (国立社会科学高等研究院教授・現代日本研究所長)	フランス共和国
第17回・平成10年度	日本研究推進への多年の貢献と、『古事記』の 言語学的考察による一連の著作	ヴィエスワフ・コタンスキ (ワルシャワ大学名誉教授)	ポーランド共和国
第18回・平成11年度	多年にわたる日本文学・日本文化史研究の功績と 『もう一つの中世像』を中心とする一連の著作	バーバラ・ルーシュ (コロンビア大学日本文学・文化名誉教授、中世日本研究所長)	アメリカ合衆国
第19回・平成12年度	『近世崎人の芸術』と、日本美術研究に 関する一連の著作	ジョン・ローゼンフィルド (ハーバード大学東洋美術史名誉教授)	アメリカ合衆国
第20回・平成13年度	“Embracing Defeat” (邦訳『敗北を抱きしめて』) をはじめとする一連の著作	ジョン・ダワー (マサチューセッツ工科大学教授)	アメリカ合衆国
第21回・平成16年度	『余暇を通じてみた日本文化』『拳の文化史』をはじめと する余暇社会学、娯楽史的分野に関する一連の著作	セップ・リンハルト (ウィーン大学日本学教授)	オーストリア共和国
第22回・平成19年度	“A Waka Anthology, Volume One” を はじめとする一連の著作	エドウィンA.クラントン (ハーバード大学日本文学教授)	アメリカ合衆国
第23回・平成22年度	『日蔵漢籍善本書録』 をはじめとする一連の著作	嚴 紹瀛 (北京大学教授)	中華人民共和国
第24回・平成25年度	『日本の書籍—始発より19世紀にいたる文化史』及び 江戸時代の書籍文化に関する一連の著作、また欧州所在の 日本古典籍の書誌調査に基づくデータベースの整備	ピーター・コーニツキー (ケンブリッジ大学教授)	英国
第25回・平成28年度	『日本史—侍からソフト・パワーへ』をはじめとする 一連の著作	ウィリー・F・ヴァンドウラ (ルーヴァン大学名誉教授兼任教授)	ベルギー王国